

アルゼンティン国
サンロケ病院消化器病診断・研究センター
プロジェクト計画打合せ専門家チーム報告書

平成元年5月

国際協力事業団
医療協力部

ARY

医 協
J R
89-26

アルゼンティン国

サンロケ病院消化器病診断・研究センター

プロジェクト計画打合せ専門家チーム報告書

2006

JICA LIBRARY



1077682(1)

平成元年 5 月

国際協力事業団
医療協力部



序 文

アルゼンティン国政府は、内陸部地方の開発を最優先とし、かつ消化器病対策が極めて重要な課題と位置付け、コルドバ州にある州立サンロケ病院の消化器病診断・研究センターに対する技術協力を日本政府に要請した。

かかる要請を受けて、我が国は、昭和60年4月1日から5ヶ年計画で、山口大学医学部を国内中心支援機関とし、プロジェクト方式技術協力を開始した。

本件協力は、コルドバ州立サンロケ病院の消化器内科を消化器内視鏡を主とする消化器病診断・研究センターとして分離独立させ、専門医への消化器病診断・治療技術の移転を通じ、消化器疾患の早期発見、的確な診断、治療技術の向上を図ることと、併せて、同病院のレジデント、国立コルドバ大学医学部の学生や周辺州の医師に対する教育及び再訓練の場とすることを目指している。

平成元年10月に実施計画しているエバリュエーション調査を控え、本プロジェクトの進捗状況の正確な把握と今後一年間の協力実施についての計画策定に関し、相手国側と協議する目的で、山口大学医学部第一内科竹本忠良教授（当時）を団長とする計画打合せ専門家チームを派遣した。

本報告書は、上記専門家チームの報告をとりまとめたものである。

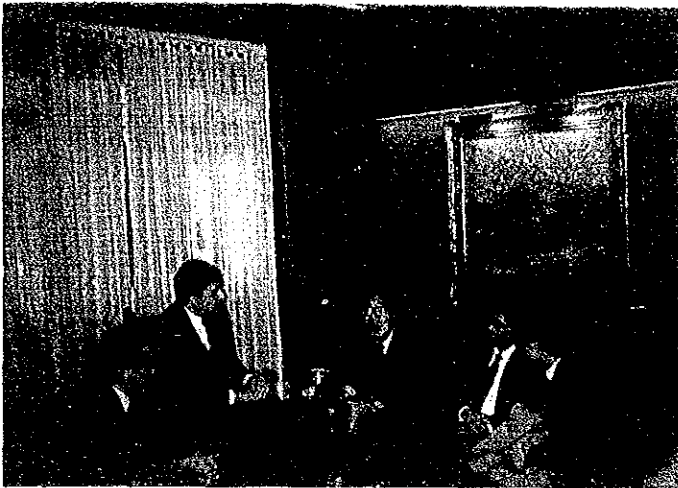
ここに、専門家各位並びに本専門家チーム派遣に当って、ご協力賜わった関係各位に対し、深甚なる謝意を表するとともに、今後とも本件技術協力の成功のために、更なるご支援をお願いする次第である。

平成元年5月

国際協力事業団

医療協力部長

近 藤 健 文



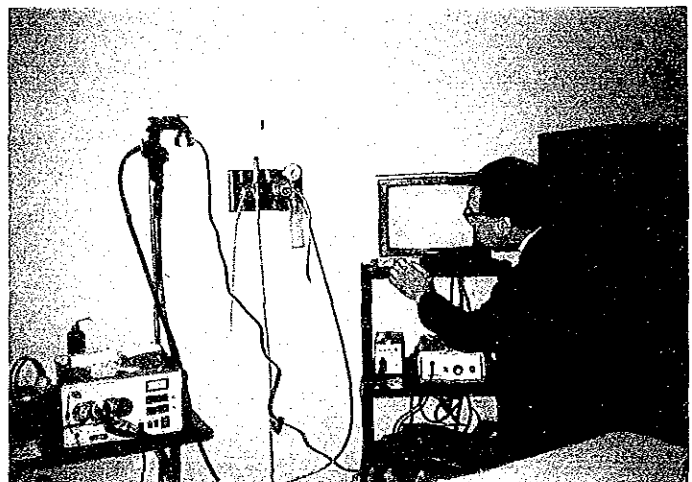
専門家チーム
アルゼンティン国保健大臣表敬



サンロケ病院にて打合せ



ミニッツ署名・交換



内視鏡検査室で供与機材の
管理・運転状況を調査

目 次

1. 計画打合せ専門家チームの派遣	1
1-1 専門家チーム派遣の経緯と目的	1
1-2 専門家チームの構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2. 調査の結果	4
2-1 昭和63年及び平成元年度協力計画	4
2-2 プロジェクト進捗状況	5
2-3 供与機材の使用・管理状況	6
2-4 調査報告	13
2-5 その他	14
附 属 資 料	
① 実施協議調査団討議議事録（R/D）及び暫定実施計画（T S I）	17
② 計画打合せ専門家チーム協議議事録（ミニッツ）	29

1. 計画打合せ専門家チームの派遣

1-1 専門家チーム派遣の経緯と目的

アルゼンティン国の内陸に位置するコルドバ州の州立サンロケ病院に対する消化器病診断・研究センタープロジェクトは、昭和60年1月9日山口大学医学部竹本忠良教授（当時）を団長とする実施協議調査団により、討議議事録（R/D）の署名・交換が行なわれ、同年4月1日から5ケ年の計画でプロジェクト方式技術協力を開始したものである。

本プロジェクトの目的は、アルゼンティンの国民に比較的高い有病率を占めている胃腸疾患に対する診断・治療面での技術協力をを行い、アルゼンティン国の医療技術向上を図り、同国国民の健康の保持増進に資することである。

本プロジェクトの開始と同時にアルゼンティン国側は独自予算でサンロケ病院の増改築を行い、消化器内視鏡を主とする消化器病診断・研究部門を分離独立させて「消化器病診断・研究センター」として、昭和61年9月24日に開所式を行った。本センターへの供与機材として、内視鏡部門、超音波診断部門、放射線診断部門の医療機器の搬入、据付が順調に進行し、年を追う毎に内部施設は充実されつつあり、短期専門家派遣、カウンターパート研修員受入れも継続的に実施されており、日本側の技術協力は当初計画に沿って着実に進展しつつある。

以上の背景を踏まえて、これまでの専門家派遣及び研修員受入れによる技術移転の状況並びに供与機材の使用・管理状況等につき協力の成果を調査し、最終年度のプロジェクト協力計画策定を行うことを目的として計画打合せ専門家チームを派遣したものである。

1-2 専門家チームの構成

団 長（総 括）	竹 本 忠 良	山口労災病院院長
団 員（消化器内科）	木 村 健	自治医科大学 消化器病内科学教授
団 員（内視鏡学）	長 廻 紘	東京女子医科大学 消化器内科助教授
団 員（協力計画）	山 中 隆	JICA研修事業部 管理課

1-3 調査日程

日順	月 日	曜日	行 程
1	8月 1日	月	東京発 ロサンジェルス着 同発
2	2日	火	リオデジャネイロ着 同発, ブエノスアイレス着 17:30~日本大使館表敬
3	3日	水	ブエノスアイレス発 コルドバ着 16:00) サンロケ病院にて計画打合せ 18:30
4	4日	木	10:00 消化器病診断・研究センター視察) 11:00) 計画打合せ 13:00 14:30) 17:00 21:00 コルドバ州保健省主催懇談会
5	5日	金	9:00 コルドバ州保健大臣表敬 10:00 ミニッツ作成 13:00) 調査団主催懇親会 15:00 19:00) シンポジウム 23:30
6	6日	土	8:30 シンポジウム) 13:00
7	7日	日	団内作業
8	8日	月	10:00 ミニッツ署名・交換 コルドバ発 ブエノスアイレス着 20:30 JICAアルゼンティン事務所長主催懇親会
9	9日	火	11:00 大使館へ帰国報告 ブエノスアイレス発 リオデジャネイロ着 同発
10	10日	水	ニューヨーク着
11	11日	木	ニューヨーク発
12	12日	金	東京着

1-4 主要面談者

ア. コルドバ州保健省

Ministro de Salud (保健大臣)

Dr. Abelardo Elias Rahal

Sub Director Gral. de Atencion Medica Capital (基本医療庁副長官)

Mr. Carlos Enrique Bergallo

Director General de Medicina Asistencial Rehabilitacion

Dr. Eduardo Lisandro Flories (診療医学、リハビリテーション庁長官)

Subsecretario Gestion Ambiental (環境管理部副書記官)

Ing. Daniel E. Di Giusto

イ. サンロケ病院

Director (院長)

Dr. Leopoldo Héctor Conde

Chief of Endoscopy Center (センター所長)

Dr. Antonio Luis Higa

Sub Chief of Endoscopy Center (センター副所長)

Dr. José Luis Campra

ウ. 在アルゼンティン日本大使館

石原 公 使

望 月 一等書記官

エ. JICAアルゼンティン事務所

上 村 所 長

青 木 業務第二課長

江 塚 同課員

2. 調査の結果

2-1 昭和63年及び平成元年度協力計画

(1) 専門家派遣計画

昭和63年度

- ア. 内視鏡 自治医大 田中 昌宏(昭和63年10月19日～同年11月17日)
- イ. 内視鏡 山口 大多 田正弘(平成元年4月3日～同年4月28日)
- ウ. 超音波診断 山口 大相 部剛(昭和63年11月2日～同年12月1日)
- エ. 病理学 順天堂大 桑原 紀之(昭和63年11月18日～同年12月4日)

平成元年度

- ア. 内視鏡 自治医大 吉田 行雄(平成元年10月中旬より1ヶ月間)
- イ. 内視鏡 山口 大富 士匡(平成2年2月上旬より1ヶ月間)
- ウ. 放射線診断 順天堂大 浜田 勉(平成2年2月下旬より1ヶ月間)
- エ. 超音波診断 自治医大 上野 規男(平成2年2月下旬より1ヶ月間)
- オ. 免疫学 山口 大福 元陽平(平成元年8月2日～同年8月23日)

(2) 機材供与計画

昭和63年度供与機材については、本邦購送分として、TV内視鏡、内視鏡鉗子超音波洗浄器、十二指腸ファイバースコープ等、また、現地調達分としてパーソナルコンピュータを計画している。

平成元年度供与機材については、内視鏡用超音波観測装置、内視鏡洗滌消毒装置、上部消化管・十二指腸・大腸各種ファイバースコープ、スコープカメラ、マイクロ波手術器等輸送費を含め30,000千円を計画している。

(3) 研修員の受入れ計画

昭和63年度

ア. 消化器内視鏡学

Dr. Eduardo Antonio Casaretto (昭和63年9月27日～同年12月25日)

イ. 消化器内視鏡学

Dr. Jesé Luis Prato (平成元年3月6日～同年6月10日)

平成元年度(消化器内視鏡学 2名)

上記カウンターパート研修は、山口大学医学部、順天堂大学、東京女子医科大学、自治医科大学等の国内支援機関で実施する。

(4) その他

- ア. エバリュエーション調査団の派遣時期を元年10月中旬に設定することで、アルゼン

ティン国側カウンターパートの了承を得た。

イ。本プロジェクトへの日本側の技術協力は、平成2年3月31日をもって完了する予定で進められているが、「アルゼンティン国側カウンターパートは、プロジェクト当初協力期間終了後も規模を縮小した形での継続的技術協力（専門家派遣、スベアパーツ等の機材供与）」を強く要請している。

2-2 プロジェクトの進捗状況

ア。内視鏡、放射線診断、超音波診断部門に共通して、現在に至るまでの日本側の技術協力の成果としてアルゼンティン国側カウンターパートは、本プロジェクトの展開を通じ修得した高度技術を駆使して、本センターで消化器疾患患者の診療、治療に従事しており、コルドバ州はもとよりアルゼンティン国全土より患者を受入れ、国民の健康増進に寄与している。

また、同病院のレジデント、国立コルドバ大学医学部の学生、また周辺州の医師に対する教育及び再教育の場としても重要な役割を果たしている。

アルゼンティン国の逼迫した財政状況に起因するところの実施体制の整備の遅れ、すなわち、研究活動実施のため適正な定員確保のための人員増、医師の給与水準の改善等が期待できない現状では、本センターの消化器病研究活動が低迷することは止むを得ないとも言えるが、今回、新たに専門家チームリーダーより研究課題をアルゼンティン国側に提示することで、研究活動の活性化を促した。

本センターでの診断件数等医療実績は、附属資料⑦を参照願いたい。

イ。本プロジェクト協力期間中、日本側は、年間数名の短期専門家派遣、2～3名のカウンターパート研修員の受入れ、センターの施設整備のために機材供与を実施しているが、プロジェクトを運営・管理し、専門技術を継続的に移転・指導する長期専門家派遣は実現を見ていない。しかし、臨床分野での専門家（医師）の長期派遣は、我が国国内事情から制約を受け、止むを得ないことでもある。

ウ。本センターでは、昭和63年8月時点で、消化器X線検査は最低6枚撮影し110 Aust-
rales、内視鏡診断は60 Australes、超音波診断が20 Australesの費用を要する。我が国では、X線検査で疑わしい症例の患者が精密検査の一環として内視鏡検査を受けるが、本センターの場合、X線検査で疑わしくとも、内視鏡で異常を認めないケースが頻繁に見受けられる。つまり、X線検査の精度が低い訳である。これでは、患者は、X線検査経費だけ余計な支出を強いられることともなり、最初から内視鏡検査を受けた方が経済的であるということになる。この結果、本センターでは、X線検査数の減少が見られ、日本の「X線→内視鏡」という検査システムに逆行傾向にある。しかし、内視鏡検査は、かなり侵襲的であり、患者への苦痛も大きい。その点、X線検査は侵襲が少なく患者への苦痛も少な

いことから、検査精度と確診率を高めるための技術指導も重要な意義を持っている。

エ、プロジェクトの波及効果に関しては、コルドバ大学医学部の学生、卒業生やサンロケ病院のレジデント医師を対象に本センターで研修事業を実施しており、現在、20名余りの研修医が在籍する。そのカリキュラムに関しては別紙「研修医プログラム」を参照願いたい。現在、本センターで養成された医師3名が同国地方部で活躍している。

また、日本人専門家来訪時には、シンポジウムを開催し、新技術・知識の普及に努めており、1988年8月のシンポジウムの内容については、別紙「シンポジウムパンフレット」を参照願いたい。

オ、JICAアルゼンティン事務所の配慮により秘書1名が本センターに配置され、プロジェクトとJICA事務所間の連絡、プロジェクト関連事務補助に携わっている。

2-3 供与機材の使用・管理状況

ア、昭和60、61年度供与機材の現況については、附属資料⑤の評価表のとおりである。機材の維持・管理体制、使用状況、耐久年限等が起因し、正常稼動に支障がある機材も若干ある。その対応策として、スペアパーツの補給、機材修理専門家チームの派遣、現地代理店との保守契約締結の促進が考えられる。

なお、オリンパス工学、富士写真光機（フジノン）のように、アルゼンティン国内に現地代理店を持つメーカーの機器は、維持・管理可能であるが、一般に代理店の無いメーカーの機器は、故障原因を解明することが難しく、放置されてしまう可能性も考慮しなければならないところ、供与機材選定においては、現地代理店の有無、アフターサービス体制を重視すべきである。

日本国内では、オリンパス工学製の方が品質を高く評価されているが、従前は、富士写真光機製内視鏡機器が中南米で広く普及し、サービス体制も充実しているとの理由で同社製が選定された。しかし、現在では、現地代理店の日本人スタッフが帰国し、サービス体制も弱体化しており、同社製に拘る理由はない。

イ、主な材材の課題等

(7) 近接式カセットレスX線テレビ装置（東芝メディカル）

像にチラツキがある。古田専門家もイメージ・インテンシファイヤー管の交換をアドバイスしている。チーム帰国後、東芝メディカルとの間で協議の結果、東芝メディカル側負担で交換することとなり実施した。

今回チームより、X線室外で操作できる装置を付ければより効率的であるとの提案があったので、本邦へ持ち帰り今後の検討課題とすることとした。

(イ) 臓器撮影台（サクラ精機）

ライトがすぐ切れてしまうため、現地電圧に変更するため説明書を要求された。帰国後、メーカーと連絡をとり、説明書を送付した。

(ロ) 超小型カラービデオカメラ NISCO-FI（町田製作所－CCDカメラコントローラー）

画面にノイズが入る。町田によると最近発売された新型はノイズが入らないとのことだが、町田製に拘わらず性能を考慮し、オリンパス製に交換した方がよいと思われる。本件 63 年度の供与機材の中に追加機材としてリストアップされている。

(ハ) 超音波診断装置（62年度分）

調査団訪問直前にセンターに据付けられたものだが、このプリンターには、コストの高い輸入紙を使用せねばならず、ランニングコストが非常に高額になる為、現地で調達可能な用紙に対応できるように改良する方向で検討した。

(ニ) 内視鏡部品

チームが携行を託された修理済み内視鏡部品にネジの締め忘れがあった。特殊なネジで、かつアルゼンティン国内で調達できないため、帰国後、プロジェクトサイトへ送付した。

ウ. 昭和 63 年度供与機材

TV 内視鏡一式の詳細仕様については、見積結果（和文・英文）を参照願いたい。

なお、63 年度供与機材内容に関して、アルゼンティン国側カウンターパートと協議を重ね、了解を取り付け、同時に要請書（A4 フォーム）の提出方指導した。

エ. 平成元年度供与機材

(ア) 内視鏡用超音波観測装置（オリンパス工学）

超音波ガストロファイバースコープ

(イ) 内視鏡洗滌消毒装置（オリンパス工学）

(ロ) 上部消化管，十二指腸，大腸ファイバースコープ（オリンパス光学）

(ハ) スコープカメラ（東芝）

(ニ) マイクロ波手術器（平和電子）

(ホ) アンドルファー内圧測定システム用附属品（スター・メディカル）

(ヘ) スペアパーツ

63 年度に TV 内視鏡が供与されると、診断におけるファイバースコープの位置付けが変化する。勿論、TV 内視鏡 1 台では不足であり、従来のファイバースコープが内視鏡検査の役割を補うことになる。この辺の状況によって、スペアパーツの内容も変化する。現時点で詰めず、平成元年度以降の検討課題とすることとした。以上、アルゼンティン国側カウンターパートの意見であり、チーム側も了承した。

㉞ 書籍

アルゼンティン国側カウンターパートによると、従来、図書は単に機材ではないとの日本側の判断で供与実現しなかったようであるが、今回、改めて図書供与の要望があった。他のプロジェクトでは、図書の供与も実施しており、アルゼンティン国側カウンターパートの要望に応える方向で検討することとし、なお、元年度より、専門家携行機材に含めて対応することとした。

オ. 機材の管理・補充体制

既供与機材は、全てサンロケ病院の総務課で登録・管理されている。本センターとしては、プロジェクト終了後もスペアパーツを補充する予算を確保することに努めるとしている。よって、ファイバースコープ程度の機材は購入可能と思われるが、数千万円単位の高額な医療機器はとて購入する余裕はないと思料される。

(研修医プログラム)

PROGRAMME OF ACTIVITIES FOR THE TRAINING-STAGE DOCTORS

MONDAYS :BIBLIOGRAPHICAL MEETING.

UPPER G.I.

VARIOUS THERAPEUTIC PROCEDURES.

COLONOSCOPY.

TUESDAYS :ABDOMINAL ECOGRAPHY.

OPTIONAL THERAPEUTIC PROCEDURES.

ROUND CLINIC.

WEDNESDAYS :E.R.C.P. - P.T.C. - P.T.C.D.

PAPILOTOMIES.

UPPER G.I.

THURSDAYS :ABDOMINAL ECOGRAPHY.

PUNCTIONS, DRAINAGE, COLANGIOGRAPHIES WITH ECOGRAPHIC MONITORING.

CLINICAL, SURGICAL AND PATHOLOGICAL MEETING.

ROUND CLINIC.

FRIDAYS :COLONOSCOPY.

E.R.C.P.

PAPILOTOMY.

EL SIMPOSIO SE DESARROLLARA EN EL CIRCULO MEDICO DE CORDOBA

Av. Ambrosio D'Amas 820 - Córdoba - Argentina

Informas e Inscrición

Centro de Endoscopia, Diagnóstico e Investigaciones en Gastroenterología del Hospital San Roque de Córdoba Argentina.

Rosario de Santa Fé 374 Tel: 30071-22021 Córdoba - Argentina

JICA
Agencia de Cooperación Internacional del Japón

Ricardo Rojas 401 8º Piso
Capital Federal Argentina

Centro de Endoscopia, Diagnóstico e Investigación en Gastroenterología del Hospital San Roque

SIMPOSIO INTERNACIONAL

AVANCES EN ENDOSCOPIA DIGESTIVA Y GASTROENTEROLOGIA

5 y 6 de AGOSTO de 1988

CIRCULO MEDICO DE CORDOBA
Av. Ambrosio D'Amas 820 - Córdoba

Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA)

CENTRO DE ENDOSCOPIA, DIAGNOSTICO E INVESTIGACION EN GASTROENTEROLOGIA DEL HOSPITAL SAN ROQUE

Director de Fraseología: Prof. Dr. Leopoldo Conde
Jefe del Centro: Prof. Dr. Amado L. Higa
Sub Jefe: Prof. Dr. José L. Campa

DIRECTORES DEL SIMPOSIO
Dr. Amado L. Higa
Dr. José L. Campa

COORDINADORES
Dra. María R. Delgado
Dr. Amara M. Muzard

SECRETARIO
Dr. Miguel A. Fadul

INVITADOS EXTRANJEROS
Prof. Dr. Tadayoshi Takemoto - Japón
Prof. Dr. Ken Kimura - -
Prof. Dr. Kou Nagasako - -

INVITADOS NACIONALES
Dr. Alfredo Brasca - Rosario
Dr. Jaime Katz - B.A.A.
Dr. Samuel Koban - -
Dr. Fernando Magnanini - -
Dr. Mauricio Schraler - -
Dr. Nicolás Arpa - Córdoba
Dr. José M. Araya - -
Dr. Jorge Aventin - -
Dr. Héctor F. Bustos - -
Dr. Abel L. Butti - -
Dr. Eduardo Casarotto - -
Dr. Irigoin A. Facul - -
Dr. Gustavo Jarcaum - -
Dr. Tomás Maldonado - -
Dr. Alfredo Martínez M. - -
Dr. Raúl Martín - -
Dr. Guillermo Oñiz - -
Dr. Martín Parafato - -

Diagrama

Viernes 5 de agosto

19 horas
Diagnóstico Temprano y Tratamiento no Convencional del Cáncer del Aparato Digestivo
Prof. Dr. Kou Nagasako

19,45 horas
Mesa Redonda
Coordinador:
Dr. Fernando Magnanini
Panelistas:
Dr. Eduardo Casarotto
Dr. Gustavo Jarcaum
Dr. Raúl Martín
Dr. Martín Parafato
y los invitados extranjeros

20,45 horas
Impacto de los Bloqueadores H2 en el manejo de los pacientes con Úlcera Gastrointestinal
Prof. Tadayoshi Takemoto

21,15 horas
Mesa Redonda
Coordinador:
Dr. Mauricio Schraler
Panelistas:
Dr. Abel L. Butti
Dr. Jaime Katz
Dr. Samuel Koban
Dr. Alfredo Martínez M.
y los invitados extranjeros

Sábado 6 de agosto

8,30 horas
Estado Actual de la Ecografía Endoscópica
Prof. Dr. Ken Kimura

9,15 horas
Mesa Redonda
Coordinador:
Dr. José L. Campa
Panelistas:
Dr. Jorge Aventin
Dr. Alfredo Brasca
Dr. Héctor F. Bustos
Dr. Tomás Maldonado
Dr. Guillermo Oñiz
y los invitados extranjeros

10,30 horas
Estado Actual de la Endoscopia Terapéutica en el Tratamiento de las Enfermedades Gastroenterológicas
Prof. Dr. Tadayoshi Takemoto

11,15 horas
Mesa Redonda
Coordinador:
Dr. Antonio L. Higa
Panelistas:
Dr. Mustafá Adris
Dr. José M. Araya
Dr. Fernando Magnanini
Dr. Miguel A. Fadul
y los invitados extranjeros

昭和63年度供与機材

TV内視鏡一式の見積結果

合計金額 ¥37,594,500.-

品名	型式	数量	単価	金額
アルゼンティン国向け 東芝TV-ENDOSCOPE (内訳)		1式		
1. TV-ENDOSCOPE	EES-70A	1		¥8,000,000.-
1) 本体(光源, 送気/送水ユニット スコープハンガー, 35mmカメラ ユニット付)		(1)		
2) 観察モニター		(1)		
3) 上部消化管用スコープ(直視)	TGI-70D	(1)		
2. 上部消化管用スコープ(スベア)	TGI-70D	2	2,800,000	¥5,600,000.-
3. 大腸用スコープ(Mサイズ)	TCE-70M	3	2,700,000	¥8,100,000.-
4. 大腸用スコープ(Lサイズ)	TCE-70L	3	2,800,000	¥8,400,000.-
5. 有窓生検鉗子	BF-2417SH	30	25,000	¥750,000.-
6. 有窓生検鉗子	BF-2423SH	20	25,000	¥500,000.-
7. 有窓, 針付生検鉗子	BF-2417SHN	30	31,000	¥930,000.-
8. 有窓, 針付生検鉗子	BF-2417SHN	20	31,000	¥620,000.-
9. 鱗口異物鉗子	CF-2417M	10	30,000	¥300,000.-
10. 鱗口異物鉗子	CF-2423M	10	30,000	¥300,000.-
11. 三本爪回収鉗子	TH-2417	10	30,000	¥300,000.-
12. 三本爪回収鉗子	TH-2423	10	30,000	¥300,000.-
13. バスケット型回収鉗子	BC-2417	10	30,000	¥300,000.-
14. バスケット型回収鉗子	BC-2417	10	30,000	¥300,000.-
15. 吸引ポンプ	S-80	1		¥220,000.-
16. アイソレーショントランス	EEFP001A	1		¥66,000.-
17. 台車	EGCM001A	1		¥56,000.-
18. 光源アダプター(LG)	EALG001A	1		¥50,000.-
19. 光源アダプター(AW)	EAAW001A	1		¥50,000.-
20. オリンパス電気メスアダプター	PA-100	1		¥7,500.-
21. オリンパス自動洗浄機アダプター	MA-400	1		¥15,000.-
22. 1/2" V. T. R.	BR-6400	1		¥430,000.-
23. スベアパーツ(概算)		1		¥2,000,000.-
			合計	¥37,594,500.-

Composition

1.	TV-ENDOSCOPE	EES-70A	1
	1) Main Unit (Light Source, 35mm Camera Unit, water/air supply unit)		(1)
	2) Observation Monitor		(1)
	3) Endoscope for Upper GI Tract Direct View type	TGI-70D	(1)
2.	Endoscope for Upper GI Tract Direct View type for spare	TGI-70D	2
3.	Endoscope for Lower GI Tract M Size	TCE-70M	3
4.	Endoscope for Lower GI Tract L Size	TCE-70L	3
5.	Biopsy Forcep with Window	BF-2417SH	30
6.	Biopsy Forcep with Window	BF-2423SH	20
7.	Biopsy Forcep with Window/Needle	BF-2417SHN	30
9.	Biopsy Forcep with Window/Needle	BF-2417SHN	20
10.	Crocodile Forceps	CF-2417M	10
11.	Crocodile Forceps	CF-2423M	10
12.	Three Hooks Forceps	TH-2417	10
13.	Three Hooks Forceps	TH-2423	10
14.	Basket Catheter	BC-2417	10
15.	Suction pump	S-80	1
16.	Isolation transformer	EEFP001A	1
17.	Cart for EEFP001A	EGCM001A	1
18.	Light source adaptor (IG)	EALG001A	1
19.	Light source adaptor (AW)	EAAW001A	1
20.	Adaptor for Olimpus surgical electric cutter	PA-100	1
21.	Adaptor for Olimpus automatic scope cleaner	MA-400	1
22.	VTR 1/2 inch		1
23.	Spare parts		1

2-4 調査報告

(長廻 絃 団員)

昭和63年8月2日から12日まで、計画打合せ専門家チームの一員として、サンロケ病院を訪問した。主目的は、計画最終年度の機材供与及び人的交流についての打合せであったがその他に各団員による講演と供与機材の使用状況の調査も行った。

ア、8月4日、8日の2日に互り、サンロケ病院消化器病診断・研究センター施設を見学した。いずれもDr. Faldoが術者で、上部消化管内視鏡検査を行っていた(患者は4日が胃ピラン、十二指腸潰瘍、8日の症例は特別の所見がない)。

上部内科管検査は、ファイバーの折れが相当にひどいスコープで、しかもテレビのノイズがひどく、悪い条件での検査であるにもかかわらず、観察は正確で生検も的確になされていた。コロノスコープ、ERCP、ラバロスコープの検査は見ることはできなかったが、略同じと想像できる。今後それぞれの専門家が派遣され、レポートがなされることと思われる。ただし、コロノスコープの検査が非常に不振であると聞いた。それは医療制度の根本に関する事なので、ここで他国の者が言及しても仕様のないことである。すなわちコロノスコープの前に注腸造影を行なうことが半ば常識となっているようであるが、X線検査を受けるためには患者はフィルム持参が原則となっている。アルゼンティン国内の公立病院の医療費が無料であることから、注腸X線はなかなか行なわれず、まして、その先にあると考えられるコロノスコープ(X線フィルムをもとに適応が決められることが多い)は、極めて施行件数が少ない。全く同じことが上部消化管(食道・胃・十二指腸)にも言えるはずであるが、上部では大腸ほど内視鏡検査前のX線検査が重視されていないため、内視鏡は相当行なわれているようである。しかし、これも最近に至って一層深刻化した経済苦境のため、一時の増勢が鈍ってきているようである。

知識・技能とも優秀であるが、そういったものとあまり関係のない社会情勢の影響を受けてセンターの能力が十分に発揮されない恐れがある。

イ. 講演

コルドバ市の医師会館において「食道・胃の早期癌の内視鏡診断及び超音波診断」につき講演を行った。講演は英語で行ないDr. CAMPRAがスペイン語に通訳、その後、Discussionに移ったが、余り的確な質問は受けなかった。サンロケ病院の内視鏡センターで早期胃癌が一例、早期食道癌にいたっては経験ゼロということだから止むを得ないことかもしれない。

木村、竹本両教授の講演についても同様であるが、現地の実情とあまりかけ離れたことを話しても、益を与えないのではないかと察せられる。今後派遣される専門家は、最新の業績とともに基本的なこともじっくりディスカッションになるような材料を持って行って講演することも有意義であると思う。

2-5 その他

ア. サンロケ病院消化器病診断・研究センター広報用パンフレットの作成について

JICA本部によると本件原稿のアルゼンティン国側C/Pからの提出が遅れていると
のことであったが、実は既に提出済であった。ただ、JICAアルゼンティン事務所で内容検
討に6ヶ月を要し、やっと最近内容修正をするよう指示があり、現在修正中であった。

イ. アルゼンティン国側C/PよりJICA本部への要望

専門家派遣に当たり、その人の論文、著作の分野別件数のわかる資料の送付、すなわち
履歴書の該当欄(和文)に研究分野、論文テーマ、発表数等を記述して送付して欲しい旨
の発言があった。アルゼンティン国側C/Pは、これを基に専門家の力量を判断し、受入
体制を準備するとのことであった。

また、シンポジウムの開催を広報するためのポスター作成を急ぐため、シンポジウムで
の発表演題についても可能な限り早期の連絡を希望しており、JICA側もアルゼンティ
ン国側C/Pの要望に答えられるよう努力することを約束した。

ウ. JICAアルゼンティン事務所よりJICA本部への要望

過去の調査団報告書が未送付なので、プロジェクトの資料や各専門家の報告書を送付し
て欲しいとのことであった。

エ. 関連情報

(ア) アルゼンティン国では健康保険加入者や裕福な人たちは個人病院へ行くのが普通であ
る。無料の公立病院へは貧しい人たちが集まる。サンロケ病院は州立であり、貧しい人
たちが従来、来院していたが、このプロジェクトの結果、知名度が上がり、現在、患者
の半数は健保加入者である。このため治療費を払える人には払ってもらい、診療収入に
よる病院の健全な運営を目的にしている。

(イ) コルドバ大医学部には毎年3,000人～6,000人もの学生が入学する。入学試験もなく、授業
料も無料のためである。しかし、進級は難しく、卒業するのは500名程度である。これでも
多過ぎて医師過剰を招いており、本プロジェクト実施にも影響を与えている。

参考迄に、大学医学部の助手(full time)で3,000A/月の給料。臨床の教授はほと
んどいないが、パートタイムで5,000A/月である。

附 属 資 料

- ① 実施協議調査団討議議事録(R/D)及び暫定実施計画
- ② 計画打合せ専門家チーム協議議事録(ミニッツ)
 - 1 1987年8月派遣計画打合せ専門家チームのミニッツ
 - 2 1988年8月派遣計画打合せ専門家チームのミニッツ
- ③ カウンターパート研修員受入れ実績表
- ④ 専門家派遣実績表
- ⑤ 供与機材使用・管理評価表
- ⑥ 既派遣短期専門家による報告
- ⑦ 消化器病診断・研究センターにおける検査統計資料
 - 1 検査件数('86. ~ '88.)
 - 2 検査件数('87.8 ~ '87.11)
 - 3 検査件数('88.1 ~ '88. 7)
- ⑧ 1988年8月4日付現地新聞“LA VOZ DEL INTERIOR”紙の切り抜き

① 実施協議調査団討議議事録（R／D）及び暫定実施計画


① 実施協議調査団討議事録 (R / D)


THE RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT OF GASTROENTEROLOGICAL
ENDOSCOPY DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER

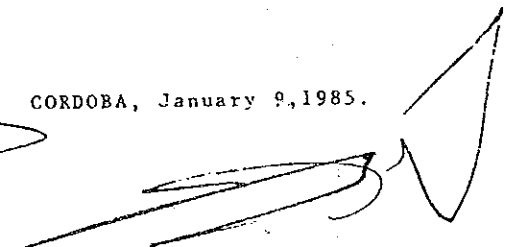
The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. Tadayoshi Takemoto visited the Argentine Republic from January 4 to January 11, 1985, for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project of Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center (hereinafter referred to as "the Project").

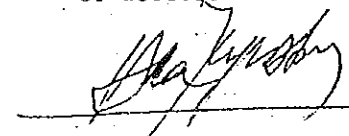
During its stay in the Argentine Republic, the Team had a series of discussions with the Argentine authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties, taking into account the provisions of the Agreement of Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of the Argentine Republic (el Convenio sobre Cooperación Técnica entre el Gobierno del Japón y el Gobierno de la República Argentina) signed in Tokyo on October 11, 1979 agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.


CORDOBA, January 9, 1985.


Prof. Dr. Tadayoshi Takemoto
Head of Japanese
Implementation Survey Team
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION
AGENCY (JICA)
JAPAN


Dr. Eduardo César Angeloz
Governor of the Province
of Córdoba


Arg. Oscar Yujnovsky
Subsecretario de Cooperación
Internacional
Ministry of Foreign Affairs
of the Argentine Republic.

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Argentine Republic will cooperate with each other in implementing the Project for the purpose of upgrading the techniques of diagnosis and treatment of gastroenterological diseases and thus contributing to the promotion of public health in the Argentine Republic.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in I. of the Annex.
3. The Government of the Argentine Republic designates the Government of the Province of Córdoba as the executing agency for the Project (hereinafter referred to as "the executing agency")

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of Japanese experts as listed in II. of the Annex through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of the Government of Japan.
2. The Japanese experts referred to in 1. above and their families will be granted in the Argentine Republic, the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries in the Argentine Republic, which will include the following:
 - (1) A temporary license in medicine shall be issued to experts who are well qualified in accordance with the prevailing laws and regulations in force in Japan upon arrival in the Argentine Republic.
 - (2) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad in relation with the implementation of the Project.
 - (3) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects including one motor vehicle per each family group of the expert which may be brought into from abroad or taken out of the Argentina Republic;
 - (4) Free medical services and facilities to the Japanese experts and their families.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and the regulations in force in Japan the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in III. of the Annex through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of the Government of Japan.
2. The Equipment referred to in 1. above will become the property of the Government of the Argentine Republic upon being delivered c.i.f. to the Argentine authorities concerned at the port(s) and/or airport(s) of disembarkation and its property will be transferred to the executing agency in order to be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts.

IV. TRAINING OF ARGENTINE PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Argentine personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of the Government of Japan.
2. The Government of Argentine Republic through the executing agency will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Argentine personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES OF ARGENTINE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic through the executing agency will take necessary measures to secure at its own expense the necessary services of Argentine counterpart and administrative personnel as listed in IV. of the Annex.
2. The Government of the Argentine Republic through the executing agency will allocate the necessary number of well qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan for the effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic through the executing agency will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Land, buildings and facilities as listed in V. of the Annex;
 - (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III. above;
 - (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of the Japanese experts within the Argentine Republic;
 - (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.
2. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic will exempt customs duties, internal taxes and any other charges, imposed on the Equipment in the Argentine Republic.
3. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic through the executing agency will bear:
 - (1) Expenses necessary for the transportation of the Equipment within the Argentine Republic as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
 - (2) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

Handwritten signature and initials in black ink, consisting of a stylized signature followed by the initials 'J. J.' and a large, sweeping flourish.

VII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Argentine Republic undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Argentine Republic except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

VIII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Ministry of Foreign Affairs and the Ministry of Health of the Province of Córdoba will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Director of the San Roque Hospital, as the Head of the Project, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.
3. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Argentine counterpart personnel on matters pertaining to the implementation of the Project.
4. For the effective and successful implementation of the Project, a Coordinating Committee will be established with the function and composition as referred to in VI. of the Annex.

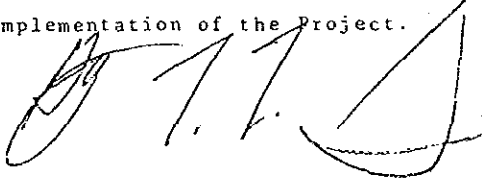
IX. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Record of Discussions.

X. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Record of Discussions will be five (5) years from April 1, 1985.

However, there will be a general review by the Coordinating Committee on the progress of the implementation of the Project during the third year of the cooperation period in order to assess whether the term of cooperation should be modified for the successful implementation of the Project.

A large, stylized handwritten signature in black ink, appearing to be 'B. T. A.', is written over the bottom portion of the text in section X.

ANNEX

I. MASTER PLAN

1. Objective of the Project

The main objective of the Project is to cooperate with the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center of the San Roque Hospital to be established in the Province of Córdoba, and to strengthen the capabilities of diagnosis and treatment in gastroenterology with special emphasis on the endoscopic techniques supported by radiology, pathology and clinical laboratory work.

2. Objectives of the Japanese Technical Cooperation

The objectives of the Japanese Technical Cooperation will include the following:

- (1) Improvement of the capabilities of diagnosis and treatment in gastroenterology in the San Roque Hospital by upgrading the knowledge and techniques of its staff in endoscopy, radiology, pathology, and clinical laboratory;
- (2) Advanced training of endoscopists and gastroenterologists;
- (3) Evaluation of the entire project operation.
- (4) Other relevant activities mutually agreed upon as necessary.

3. Implementation of the Technical Cooperation

The Government of the Japan will cooperate with the Government of the Argentine Republic in carrying out the Project through the dispatch of Japanese experts, acceptance of Argentine personnel for training in Japan and provision of equipment.

II. JAPANESE EXPERTS

1. Experts in the fields of:

- (1) Endoscopy
- (2) Radiology
- (3) Pathology
- (4) Clinical laboratory

2. Other relevant personnel mutually agreed upon as necessary.

III. LIST OF EQUIPMENT

- (1) Endoscopes and related equipment and materials
- (2) X-ray unit for general and abdominal examination
- (3) Equipment and materials for pathological work
- (4) Equipment and materials for clinical laboratory work
- (5) Ultrasonic diagnostic equipment for digestive system
- (6) Other equipment and materials mutually agreed upon as necessary

IV. LIST OF ARGENTINE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Head of the Project:
Director of the San Roque Hospital
2. Chief of the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center
3. Countepart personnel in the fields of:
 - (1) Endoscopy
 - (2) Radiology
 - (3) Pathology
 - (4) Clinical laboratory
4. Administrative personnel
 - (1) Administrator
 - (2) Accountant
 - (3) Other necessary supporting staff

V. LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land (Córdoba)
2. Buildings and facilities
 - (1) Enough space for the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center in the building of the San Roque Hospital
 - (2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts
 - (3) Facilities such as electricity, gas and water supply, sewerage system, telephone and furnitures necessary for the activities under the Project.

Handwritten signature and initials in black ink, appearing to be 'J. T. D.' with a large flourish.

VI. COORDINATING COMMITTEE

1. Functions

The Coordinating Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work;

- (1) To formulate the Annual Work Plan of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- (2) To review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements of the Annual Work Plan;
- (3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the technical cooperation program.

2. Composition

(1) Argentine Side:

(a) Chairman: Director of the San Roque Hospital

(b) Members:

Head of the Department of Clinical Medicine

Chief of the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis
and Research Center

Deputy Chief of the Gastroenterological Endoscopy

Diagnosis and Research Center

Chief of the Radiology Section

Chief of the Pathology Section

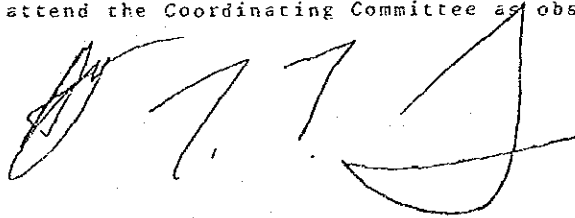
Chief of the Clinical Laboratory

(2) Japanese side:

(a) Experts

(b) Personnel concerned to be dispatched by JICA

Note: Official(s) of the Embassy of Japan in the Argentine Republic and/or official(s) of the Ministry of Foreign Affairs of the Argentine Republic may attend the Coordinating Committee as observer(s).



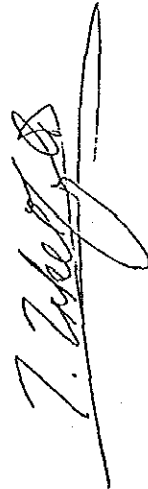
暫定実施計画

PLAN TENTATIVO DE IMPLEMENTACION PARA EL PROYECTO DEL CENTRO DE ENDOSCOPIA DIAGNOSTICO E INVESTIGACION EN GASTROENTEROLOGIA

	FY 1984	FY 1985	FY 1986	FY 1987	FY 1988	FY 1989
TRAINING IN JAPAN		ENDOSCOPY 6 M ULTRASONOGRAPHY 3-4 M ADMINISTRATOR 1 M	ENDOSCOPY 6 M RADIOLOGY 3-6 M PATHOLOGY 3-6 M	PATHOLOGY 3-6 M RADIOLOGY 3-6 M	ENDOSCOPY 6 M	*** - - - -
EXPERT		ENDOSCOPY 2W-1 M PATHOLOGY 2W-1 M	ENDOSCOPY 2W-1 M RADIOLOGY 2W-1 M RADIOLOGY (TECH) 2W-1 M	PATHOLOGY 2W-1 M ENDOSCOPY 2W-1 M	PATHOLOGY 2W-1 M	***
EQUIPMENT		X RAY UNIT (GENERAL) AUTOMATIC DEVELOP-MACHINE ULTRASONIC DIAGNOSIS EQUIPMENT ENDOSCOPE (G.I.) WITH COLOR MONITOR CONSUMABLES FOR ABOVE	ULTRASONIC DIAGNOSTIC EQUIPMENT WITH MULTI-CAMERA X RAY UNIT FOR G.I. EQUIPMENT FOR PATHOLO-GY CONSUMABLES FOR ABOVE AUTOMATIC DEVELOP MACHINE,	SUPPLEMENTARY EQUIP-MENT FOR ENDOSCOPY EQUIPMENT FOR CLINICAL LAB. CONSUMABLES	EQUIPMENT FOR ENDOS-COPY *** SUPPLEMENTARY EQUIP-MENT FOR PATHOLOGY & CLINICAL LAB. CONSUMABLES	*** SUPPLEMENTARY EQUIPMENT CONSUMABLES
SURVEY TEAM	IMPLEMENTATION (R/D) TEAM		BUILDING AND FACILITIES AND ADVISORY TEAM	PLANNING AND ADJUST-MENT TEAM	ADVISORY TEAM	EVALUATION TEAM
BUILDING ARRANGEMENT		-----	CONSTRUCTION WILL BE FINISHED BY APRIL 30th.			

NOTE 1) *** TO BE MUTUALLY AGREED AT THE COORDINATING COMMITTEE WHEN EXPERTS OR SURVEY TEAMS STAY IN ARGENTINA

2) THIS SCHEDULE IS SUBJECT TO CHANGE BY MUTUAL CONSULTATION



PROF. TADAYOSHI TAKEMOTO



PROF. DR. LEOPOLDO CONDE

② 計画打合せ専門家チーム協議議事録（ミニッツ）

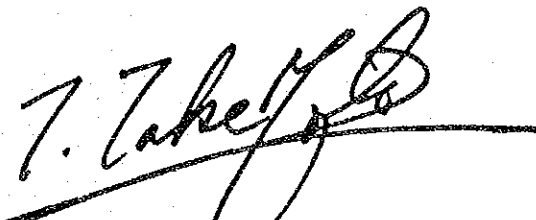
MINUTES OF THE MEETING ON THE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE PROJECT OF THE CENTER FOR ENDOSCOPY DIAGNOSIS AND
RESEARCH IN GASTROENTEROLOGY - SAN ROQUE HOSPITAL

The Japanese Planning and Consultation Survey Team organized by the Japan International Cooperation Agency headed by Professor Dr. Tadayoshi Takemoto visited the Argentine Republic from August 3rd. to 16th., 1987, with the purpose of working out the details of the Technical Cooperation Programme from 1988 to 1989.

During its stay in the Argentine Republic, the team had a series of discussion with the Argentine authorities concerned, regarding activities and cooperation of the past three year's.

As a result of the discussions, both parties come to an agreement to carry out under the tentative implementation schedule as attached herewith.

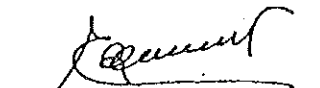
Córdoba, August 7th., 1987.



PROF. DR. TADAYOSHI TAKEMOTO
Head of the Japanese Planning
and Consultation Survey Team
J.I.C.A.



PROF. DR. LEOPORDO H. CONDE
Director of San Roque Hospital



DR. CESAR DELIO BERETTA
Ministry of Health of the
Province of Córdoba

MEMBER LIST

ARGENTINE TEAM

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. Dr. Leopoldo H. Conde | Medical Director of San Roque Hospital. |
| 2. Dr. Antonio L. Higa | Chief of the Center of Endoscopy Diagnosis and Rerearch in Gastroenterology. |
| 3. José L. Campora | Deputy Chief of the Center Endoscopy Diagnosis and Research in Gastroenterology. |

JAPANESE TEAM

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. Prof. Tadayoshi Takenoto | Head of the J.I.C.A. Team and Prof. of the University of Yamaguchi. |
| 2. Prof. Kou Nagasako | Assistant Prof. of Tokio Women's Medical College. |
| 3. Dr. Michio Obata | Director of Medical Cooperation Branch J.I.C.A. |
| 4. Mr. Toshiaki Furuya | Staff member of J.I.C.A. Buenos Aires. |

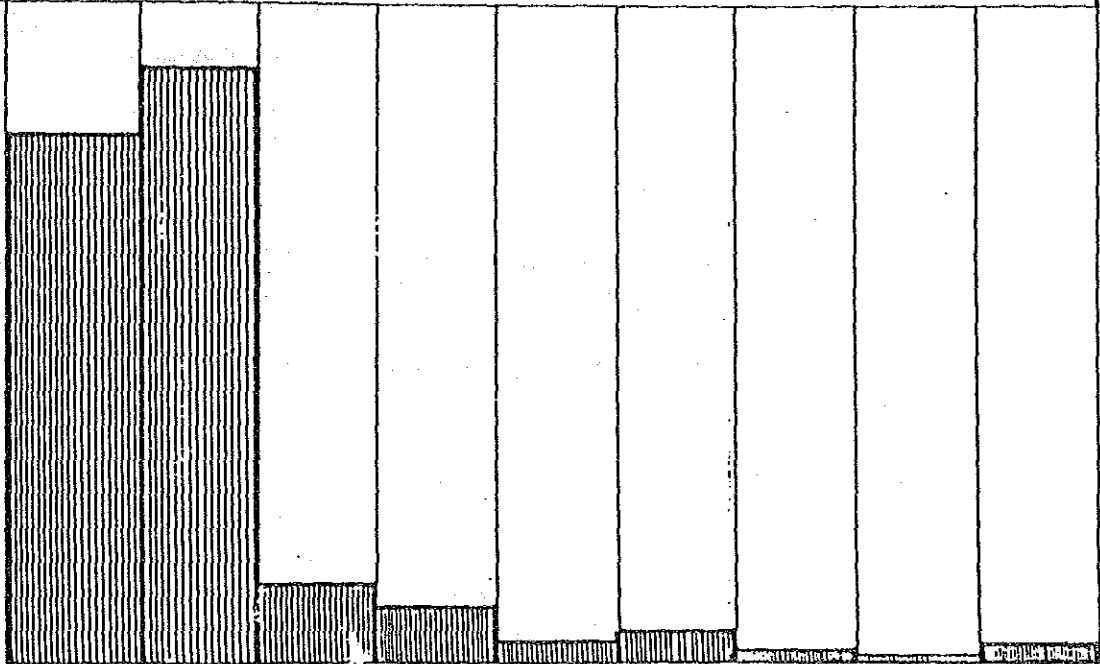
2

[Handwritten signature]

T.T.

ANNEX I / B

MES	esófago caotro- duodeno	zoogriafía	colonos copias	recto sigmoide fibros. copias	polípec. lomias	colangio mirinología sistología uenterocopia	laparot griafía	extraorái cuerpo extrario	esclero. es de vórices
octubre 1986	72	98	13	4	—	—	—	—	—
noviembre	107	116	30	—	3	—	—	—	—
diciembre	78	128	10	7	—	—	—	—	—
enero 1987	98	28	18	9	1	2	1	—	—
febrero	102	80	17	8	2	6	—	—	—
marzo	114	119	8	8	6	2	—	1	—
abril	118	125	19	17	4	—	—	—	—
mayo	156	115	15	17	1	—	—	—	—
junio	127	230	26	18	2 (colón) 3 (estóm)	—	—	—	3
Julio	160	220	20	20	—	16 (top) 3 (top) 16 (top)	2	—	3
TOTAL (10 meses)	1152	1285	174	108	21	31	3	1	6
TOTAL GENERAL	2.869 procedimientos								
PROMEDIO MENSUAL	286,9 procedimientos								



7.7.

[Handwritten signature]

ANNEX I / A

1. Construction of the building for the Center of Endoscopy , Diagnosis and Research in Gastrocenterology- San Roque Hospital

Official Opening Ceremony : 24 th September of 1986.

2. Total number of Diagnostic and Therapeutic procedures carried out from the date of / opening of the Center up to the end of July.

a.- Upper GI-Endoscopies	1132
b.- Abdominal Ultrasound studies	1285
c.- Coronoscopies	174
d.- Fiber Rectosigmoidoscopies	108
e.- Polypectomies	21
f.-ERCP (ERCP)	31
g.-Laparoscopies	3
h.-Foreing Body Removals	1
i.-Esofhageal Varixs Sclerotherapy	6
Total	2869
Monthly average of procedures	286

3. Teaching activities carried out from the date of inauguration of the Center:

a.-Fifth Theoretic and Practical Annual Course on Digestive Endoscopy

5th -7th. May 1986 / 60 Attendants.

b.-Symposium on Advances in Gastrocenterology.

September 1986. / 150 Attendants.

c.-Refreshment Course on Digestive Endoscopy.

18th. - 20th. March 1987 / 50 Attendants

d.-Sixth Theoretical and Practical Annual Course on Digestive Endoscopy.

22th. - 24th. July 1987 / 60 Attendants

- 4.-Histopathological Examinations performed at the Center.

a.-Endoscopy Biopses

b.-Endoscopic Exfoliative Citology

c.-Pathological Examinations of Surgical Specimens.

T.T.

5.- Number of experts sent from Japan to Argentina

Fy. 1986	
Pathology	2
Endoscopy	1
Fy 1987	
Pathology	1
Endoscopy	2
Abdominal Ultrasound	1
Total	7

6.- Number of Argentinian physicians trained in Japan.

Fy 1985	
Endoscopy	1
Endoscopy and Abdominal Ultrasound	1
Hospital Administration	1
Fy 1986	
Radiology	1
Endoscopy	1
Pathology	1
Fy 1987	
Radiology	1
Abdominal Ultrasound	1
Pathology	1
Total	9

7.7.

7.- Detail of Medical Equipment provided by J.I.C.A. up to date:

- a.- Ele-en fiberoscopes for Digestive Tract examinations.
- b.- One laparoscope.
- c.- Two X-Ray Equipments with accesories.
- d.- Two automatic film developers.
- e.- Four light sources
- f.- One Diathermia Unit.
- g.- Three teaching attachments.
- h.- One video Camera with monitor.
- i.- One Equipment for Abdominal Ultra Sound with seven US probes.
- j.- Microscopes and Equipment for processing pathological specimens and

teaching and photographic devices.

k.- Spare parts and multiple accessories.

CONCLUSION:

The representatives of both Governments agreed upon the performance in terms of the quality of assistencial services provided, the utilization of equipments installed at / various Departaments, performance of Argentine physicians involved in the project and the transference of technology which was carried out by Japanese Experts was found to be // highly satisfactory allowing the full achievement of the established objectives up to now.

Both teams agreed upon that in the next two years other important objectives will be achieved, particularly the development of projects for clinical and epidemiological research, as well as by implementation of advanced techniques applicable to the diagnosis and treatment of gastroenterological diseases.

7.7.

e my

1.-Mid-term evaluation for achievements of the Project for the past 3 (three) years:

In order to evaluate the achievements of the Project and the activities of the // Center, both teams examined the followings in each year of the past 3 years as / listed in Annex I.

2.-Tentative Programme for the implementation of the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center in the next 2 years.

Both teams accord to develop a program which includes the following items:

a.-Training of Argentine Personnel in Japan

FY. 1988

Endoscopy	1
Immunology	1
Total	2

FY. 1989

Abdominal Ultra Sound	1
Endoscopy	1
Total	2

b.- Dispatch of Japanese Experts to Argentina:

FY 1988

Abdominal Ultra Sound	1
Endoscopy	1
Immunology	1
Total	3

T.T.

FY 1989

Endoscopy	1
Total	1

c.-Supply of medical instruments and equipment provided by J.I.C.A.

FY 1987 (pending)

- 1) Equipments for clinical laboratory (Item 2) is not included).
- 2) Equipment for esophagic gastric and colonic motility studies.
- 3) Computer System.

Fy 1988

- 1) Video Endoscopy

Fy 1989

- 1) Echo Endoscopy
- 2) Microwave Equipment for treatment of GI tumors
- 3) Spare part and supplementary accessories.

d.-Additional activities of the Project in the future:

Issue of booklets or pamphlets with funds provided by J.I.C.A.

NOTE:

This programme is subject to changes by mutual agreement according to J.I.C.A.'s budget.

T.T.

[Handwritten signature]

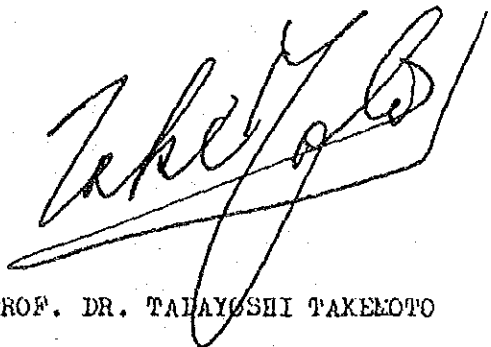
②-2 1988年計画打合せ専門家チーム協議議事録(ミニッツ)(1988年8月8日)

MINUTES OF THE MEETING FOR THE TECHNICAL COOPERATION
ON THE PROJECT OF GASTROENTEROLOGICAL ENDOSCOPY
DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER - SAN ROQUE HOSPITAL .

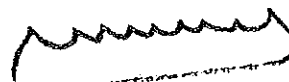
The Japanese Planning and Consultation Team (hereinafter referred to as "The Team") headed by Dr. Tadayoshi Takemoto, Prof., University of Yamaguchi, visited the Argentine Republic from August 1, 1988 to August 12, 1988 for the purpose of reviewing the progress of the Project and formulate a work plan of the Project for the remaining cooperation period.

As a result of the study and a series of discussions, the Team and the Argentine authorities concerned came to the tentative understanding as attached herewith.

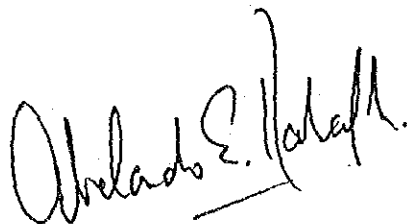
Córdoba, August 8th, 1988.-



PROF. DR. TADAYOSHI TAKEMOTO
Head of the Japanese Planning
and Consultation Survey Team



PROF. DR. LEOPOLDO H. CONDE
Director of San Roque Hospital



DR. ABELARDO RAHAL
Minister of Health of
the Province of Córdoba

ATTACHMENTS

1- Tentative programme

1) Training of Argentine Personnels in Japan.

FY 88	Endoscopy	1
	Abdominal Ultrasound	1
FY 89	Endoscopy	1
	Immunology	1
	Laboratory Technique	1

2) Dispatch of Japanese Experts to Argentina

FY 88	Dr. Tanaka	Endoscopy	
	from October 19, 1988 to November 17, 1988.		
	Dr. Aibe	Ultrasonic Diagnosis	
	from November 2, 1988 to December 1, 1988.		
	Dr. Kuwabara	Pathology	
	from November 2, 1988 to December 1, 1988.		
	Dr. Tada	Endoscopy	
	in March, 1989.		
FY 89	Endoscopy		2 doctors
	Radiology		1 doctor
	Ultrasonic Diagnosis - Doppler		1 doctor
	Immunology		1 doctor

3) Equipment Supply

FY 88	T.V. Endoscope	
	Computer System	
	Cleaner of biopsy forceps	
	PH meter for 24 Hs. (for gastroesophageal reflux)	
	Type PROXIMA.	
	Fiber bundle of: UGI - F 3 (two)	
	CDL - MF (one)	
	Fiberscope for ERCP.	
	Lamp for FLX-300 A. Fuente de luz - Fujinon.	

Change of CCD - Camera Controller of NISCO CAMERA
Additional Parts for X-ray Equipments for ABDOMINAL
ARTERIOGRAPHY.

FY 89

Echo endoscope

Laser for treatment of GI tumors and Hemorrhage.

Spare Parts, Supplementary Equipment and Accessories.

4) Additional Activities

FY 88

Pamphlets of the Center.

Seminar in November.

5) The Evaluation Survey Team will be dispatched in October, 1989.-

NOTE: This programme is subject to change by mutual agreement
according to J.I.C.A.'s budget.

ad

7.7


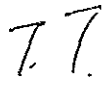
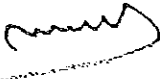
man

MEMBER LIST

ARGENTINE TEAM

- 1) Dr. Leopoldo H. Conde Medical Director of San Roque Hospital
- 2) Dr. Antonio L. Higa Chief of the Center of Endoscopy, Diagnosis and Research in gastroenterology.
- 3) Dr. José L. Campra Deputy Chief of the Center of Endoscopy, Diagnosis and Research in Gastroenterology.

JAPANESE TEAM

- PROF. DR. Tadayoshi Takemoto Head of the J.I.C.A. Team and Prof. of Yamaguchi University.
- PROF. DR. Ken Kimura Prof. of Jichi University.
-  PROF. DR. Kou Nagasako Associate Prof. of Tokyo Women's Medical Collège.
-  MR. Takashi Yamanaka Staff member of J.I.C.A. - Tokyo.
-  MR. Toshiyuki Ezuka Staff member of J.I.C.A. - Buenos Aires.

JICA

LIB